

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 31 年 2 月 20 日 午後用

## 第 70 回 獣 医 師 国 家 試 験 実 地 試 験 問 題 (D)

### 注 意 事 項

1. 問題数は 60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを 1 つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき 2 つ以上マークした場合には、そのうちの 1 つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、  
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの  
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特  
に注意すること。



**課題1** 次の文を読み、問1、問2に答えよ。

犬、ゴールデン・レトリバー、雌、10歳齢。下腹部の皮膚が赤くなっているとの主訴で来院。触診で皮膚の硬結と疼痛が認められた。〔図1-A〕は病変部の外貌、〔図1-B〕は硬結部皮膚の病理組織像（HE染色、×100（右上部枠内は×400））である。

<p>別冊 D 図 1-A, B</p>
--------------------------

**問1** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 炎症性乳癌
2. 細菌性乳腺炎
3. 多形紅斑
4. 深在性膿皮症
5. 表皮向性リンパ腫

**問2** 本疾患に対する治療に関する記述として適切なのはどれか。

1. 抗菌療法によって完治が期待できる。
2. プレドニゾン投与で病巣の大幅な縮小が期待できる。
3. 適切な化学療法により無病状態を長期間維持できることが多い。
4. 手術による病巣摘出が有効である。
5. 治療による根治は望めない。

**課題 2** 次の文を読み、問 3、問 4 に答えよ。

馬、アングロアラブ種、乗用馬、雄、10 歳齢。食欲不振と消瘦を示していた。運動器疾患により安楽死となったので剖検したところ、盲腸回盲部に寄生虫が見られた〔図 2〕。

別冊 D

図 2

**問 3** 最も適切な診断はどれか。

1. 回虫症
2. 大円虫症
3. ウマバエ幼虫症
4. 葉状条虫症
5. 溷睛虫症

**問 4** 本症の治療に用いる薬剤として適切なのはどれか。

1. イベルメクチン
2. プラジクアンテル
3. スルファジメトキシム
4. アンプロリウム
5. クリンダマイシン

課題3 次の文を読み、問5、問6に答えよ。

〔図3〕は、食品の腐敗検査で使用する器具である。

別冊D

図3

問5 この器具の名称はどれか。

1. 水平ビューレット
2. 平底秤量皿
3. コンウェイ（微量）拡散器
4. セジメントテスター
5. PLテスター

問6 図中AおよびBに注入するものとして正しいのはどれか。

- |    | A             | B             |
|----|---------------|---------------|
| 1. | アルコール         | 試験溶液と炭酸カリウム溶液 |
| 2. | 硫酸溶液          | 試験溶液と塩酸溶液     |
| 3. | 試験溶液と炭酸カリウム溶液 | アルコール         |
| 4. | 試験溶液と塩酸溶液     | 硫酸溶液          |
| 5. | 試験溶液と炭酸カリウム溶液 | 硫酸溶液          |

**課題 4** 次の文を読み、問 7、問 8 に答えよ。

犬、ミニチュア・ピンシャー、雄、3 か月齢。右大腿部の腫脹および関節内出血を主訴に来院。初診時、背部に直径約 3 cm の血腫が認められた。〔図 4〕は血液検査および頬粘膜出血時間の結果である。

別冊 D

図 4

**問 7** 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 血友病
2. 免疫介在性血小板減少症
3. 播種性血管内凝固
4. 殺鼠剤中毒
5. フォンヴィレブランド病

**問 8** 本症例に対する治療として最も有効なのはどれか。

1. 新鮮凍結血漿の輸血
2. プレドニゾロンの投与
3. ヘパリンの投与
4. ビタミン K の投与
5. トラネキサム酸の投与

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

アユの下顎に〔図 5 - A〕、体側部に〔図 5 - B〕の矢印で示す病変が認められた。

別冊 D  
図 5 - A, B

問 9 最も疑われる疾患はどれか。

1. イクチオホヌス症
2. せっそう病
3. グルゲア症
4. ミズカビ病
5. 細菌性冷水病

問 10 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 水温が 20℃ 以上に上昇する夏季によく発生する。
- b 我が国の河川で発生が確認されている。
- c 飼育水温を加温する治療法が行われている。
- d 病原体を分離培養することが難しい感染症である。
- e ワクチンが有効である。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題 6** 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

猫、雑種、雄、11 週齢。運動時の努力性呼吸を主訴に来院。触診で疼痛は認められなかった。〔図 6〕は胸部 X 線側方像である。

別冊 D

図 6

**問11** 診断名として適切なのはどれか。

1. フレイルチェスト
2. 漏斗胸
3. 横隔膜ヘルニア
4. 外傷性肋骨損傷
5. 胸骨骨折

**問12** 本症例に対する外科的処置についての記述として最も適切なのはどれか。

1. 手術は成長期を過ぎてから行う。
2. 開腹手術で修復できる。
3. 開胸手術が必要である。
4. 胸骨のプレート固定を行う。
5. 外スプリントを用いて胸骨の牽引・固定を行う。



課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

〔図7〕の植物を食べた牛が中毒を起こした。

別冊 D 図 7
-------------

問13 〔図7〕の植物が持つ主要な有毒成分はどれか。

1. グラヤノトキシン
2. オレアンドリン
3. シクトキシン
4. アニサチン
5. ブラキシシン C

問14 写真の植物と同じ作用機序によって毒性を示す植物はどれか。

1. モロヘイヤ
2. ワラビ
3. ドクゼリ
4. ソテツ
5. バイケイソウ

**課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。**

犬、ジャーマン・シェパード・ドッグ、雄、3歳齢。1週間前にキャンプに連れて行ったところ、その数日後から元気、食欲が低下し、嘔吐も認められるとの主訴で来院。予防歴はない。〔図 8 - A〕は口腔粘膜の肉眼写真、〔図 8 - B〕は血液検査結果である。

別冊 D  
図 8 - A, B

**問15** 最も疑われる疾患はどれか。

1. バベシア症
2. ライム病
3. 犬ジステンパー
4. レプトスピラ症
5. 犬パルボウイルス感染症

**問16** 本疾患に対する治療薬として適当なのはどれか。

- a アンピシリン
- b ドキシサイクリン
- c スルファジメトキシシン
- d ゲンタマイシン
- e アトバコン

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

採卵鶏農場で〔図9-A〕のような形状の卵が多数みられた。病理診断に供した採卵鶏の子宮では水腫性の腫脹が観察された。〔図9-B〕は子宮の粘膜上皮細胞のHE染色像である。

別冊D  
図9-A, B

問17 もっとも疑われる疾患はどれか。

1. 伝染性ファブリキウス嚢病
2. 鶏のウイルス性腱鞘炎・関節炎
3. 鶏貧血ウイルス病
4. 産卵低下症候群
5. 鶏脳脊髄炎

問18 本疾患の診断に用いられないのはどれか。

1. 発育鶏卵
2. がちょうの発育卵
3. あひるの発育卵
4. 鶏胚肝細胞
5. 鶏赤血球

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、3歳齢。支柱跛、歩行困難との稟告で治療。〔図10〕は削蹄後の患肢蹄底像である。

別冊 D

図 10

問19 最も適切な疾患名はどれか。

1. 趾皮膚炎
2. 趾間フレグモーネ
3. 蹄底潰瘍
4. 白帯裂（白線病）
5. 蹄球糜爛

問20 この病変が最も多くみられる部位はどこか。

1. 後肢外側蹄
2. 後肢内側蹄
3. 趾間
4. 前肢外側蹄
5. 前肢内側蹄

**課題11 次の文を読み、問21、問22に答えよ。**

犬、チワワ、雄、8歳齢。数日前から食欲が低下しているとの主訴で来院。排尿や排便に異常は認められない。〔図11 - A〕は血液検査結果、〔図11 - B〕は膀胱穿刺で採取した尿の検査結果、〔図11 - C〕は左腎臓の超音波検査像であり、右腎臓も同様の所見であった。

別冊 D

図 11 - A, B, C

**問21** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 糸球体疾患
2. ファンコーニ症候群
3. リンパ腫
4. 尿石症
5. 腎細胞癌

**問22** 本症例で確定診断に必要な検査はどれか。

1. CT 検査
2. MRI 検査
3. 腎臓のコア生検
4. 腎臓の細針吸引細胞診
5. 排泄性尿路造影

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、14 歳齢、完全室内飼育。4 日前からの間欠的な嘔吐、前日からの食欲廃絶、開口呼吸と腹囲膨満を主訴に来院。外傷歴はなく、波動感のある腹囲膨満が認められた。〔図 12〕は腹部単純 X 線側方像である。

別冊 D

図 12

問23 最も疑われる疾患・症候群はどれか。

1. 消化管穿孔
2. 胃拡張・捻転症候群
3. 猫伝染性腹膜炎
4. 腸捻転
5. 膀胱破裂

問24 次に行う検査・処置として最も適切なのはどれか。

1. バリウム造影検査
2. 腹部超音波検査
3. 内視鏡検査
4. 排泄性尿路造影
5. 試験開腹

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

朝や夕方に、牛舎内を飛翔して牛体上にたかる体長 5 mm ほどの〔図 13〕の生物を認めた。

別冊 D

図 13

問25 この生物はなにか。

1. サシバエ
2. ウシアブ
3. イエバエ
4. ニホンサシチョウバエ
5. センチニクバエ

問26 この生物についての記述で正しいのはどれか。

1. 大口馬胃虫 (*Draschia megastoma*) を媒介する。
2. エバンストリパノソーマ (*Trypanosoma evansi*) を媒介する。
3. 川の中で幼虫期を過ごす。
4. 夜間に集中して吸血する。
5. メスだけ吸血する。

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

〔図 14〕は我が国における、ある人獣共通感染症の発生月別患者報告数である。

別冊 D 図 14
--------------

問27 この人獣共通感染症はどれか。

1. 日本脳炎
2. ツツガムシ病
3. 日本紅斑熱
4. 野兎病
5. オウム病

問28 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. 我が国では東北地方での発生が多い。
2. ヒトは大部分が不顕性感染である。
3. 成豚の致死率が高い。
4. ヒト用ワクチンはない。
5. ダニ媒介性である。



**課題15** 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雄、4歳齢。以前から右眼が白いことに気づいていたが、昨日から右眼を閉じているとの主訴で来院。右眼の威嚇瞬目反応、対光反射、眩目反射は陽性であり、眼圧は7 mmHgであった。〔図 15 - A〕は来院時の右眼の外観、〔図 15 - B〕は超音波検査像である。

**別冊 D**  
**図 15 - A, B**

**問29** 右眼の所見として正しいのはどれか。

1. 角膜潰瘍がみられる。
2. 前房蓄膿がみられる。
3. 水晶体が破裂している。
4. 眼内腫瘍がみられる。
5. 網膜剥離がみられる。

**問30** 本症例に対する治療法として適切なのはどれか。

- a コルチコステロイドの全身投与
- b シクロスポリンの点眼
- c 毛様体光凝固術
- d 眼球摘出術
- e 水晶体超音波乳化吸引術

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

〔図 16〕は牛のあるウイルス性疾患の特徴を示す模式図である。

別冊 D 図 16
--------------

問31 最も可能性が高い疾患はどれか。

1. 牛ロタウイルス感染症
2. 悪性カタル熱
3. 牛ウイルス性下痢・粘膜病
4. 牛コロナウイルス感染症
5. 口蹄疫

問32 問31の原因ウイルスと同じウイルス科のウイルスによって引き起こされる疾患はどれか。

1. 豚コレラ
2. あひる肝炎
3. アフリカ馬疫
4. 伝染性気管支炎
5. 伝染性喉頭気管炎

**課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。**

犬、ミニチュア・シュナウザー、未去勢雄、8歳齢。元気・食欲はあるが昨日から頻回に排尿し尿が赤いとの主訴で来院。〔図 17 - A〕は血液検査結果、〔図 17 - B〕は腹部 X 線側方像、〔図 17 - C〕は尿沈渣の鏡検像（無染色、× 1,000）である。

<p style="text-align: center;"><b>別冊 D</b> <b>図 17 - A, B, C</b></p>
--

**問33** 最も疑われる結石の特徴として適当なのはどれか。

1. 尿の pH が酸性のときに認められることが多い。
2. 犬種特異的な結石である。
3. 門脈体循環シャントに伴って生じることが多い。
4. 尿路感染症と深く関係している。
5. 高カルシウム尿が危険因子の 1 つである。

**問34** 飼い主に対する説明内容として適切なのはどれか。

- a 去勢手術によって新たな結石形成を予防できる。
- b 結石の再発率が高い。
- c 適切な療法食と抗菌薬投与による結石を溶解できる可能性がある。
- d 外科的処置を行う際には尿道切開が必須である。
- e 肝機能検査を推奨する。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題18** 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

犬、パグ、雌、5歳齢。けいれん発作と失明を主訴に来院。〔図 18 - A, B, C, D〕は頭部 MRI 像（間脳 - 中脳レベル、A：T1 強調画像、B：T2 強調画像、C：FLAIR 画像、D：造影 T1 強調画像）である。

別冊 D  
図 18 - A, B, C, D

**問35** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 肉芽腫性髄膜脳炎
2. 髄膜腫
3. 脳梗塞
4. 壊死性髄膜脳炎
5. 大脳皮質壊死症

**問36** 問35で答えた疾患に関する記述として最も適切なのはどれか。

1. 血中のチアミン濃度が低下している。
2. 血液抗アセチルコリン受容体抗体価の上昇が認められる。
3. 血液および脳脊髄液中のジステンパーウイルス抗原が高値に検出される。
4. 脳脊髄液中に抗アストロサイト自己抗体が検出される。
5. 脳脊髄液中に好中球の著しい増多が認められる。

**課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。**

牛、ホルスタイン種、雌、38日齢。14日齢頃より進行性の右前肢跛行を認めたため診察を受けた。〔図19-A〕は外貌写真、〔図19-B〕は右前膝穿刺液の塗抹標本像（ギムザ染色、×600）である。

**別冊 D**  
**図 19-A, B**

**問37** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 突球
2. 痙攣性不全麻痺
3. 飛節周囲炎
4. 化膿性関節炎
5. 変形性関節症

**問38** 本疾患に対する治療法として適切なものはどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 関節洗浄
- c ギブス外固定
- d 部分的胫骨神経切除
- e ビタミンE投与

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

〔図 20〕はある水質検査に用いられる器具である。

別冊 D 図 20
--------------

問39 この器具を用いて測定する水質検査項目はどれか。

1. 生物化学的酸素要求量
2. 化学的酸素要求量
3. リン
4. 浮遊物質
5. 窒素

問40 畜舎（ただし、1日あたりの平均的な排水量が $50\text{ m}^3$ 以上の施設に限る）からの排水について定められているこの項目の排水基準の許容限度はどれか。

1.  $16,000\text{ mg/l}$
2.  $1,600\text{ mg/l}$
3.  $160\text{ mg/l}$
4.  $16\text{ mg/l}$
5.  $1.6\text{ mg/l}$

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

猫、ロシアンブルー、雄、5 か月齢。2 回目のワクチン接種時に心雑音が聴取された。臨床症状はなにも認められず。激しく動いた後も異常はないとのことであった。心拍数 184 回／分、右胸骨縁の頭側を最強点とする全収縮期雑音を聴取した。〔図 21 - A〕は心エコー図検査における右傍胸骨長軸五腔像、〔図 21 - B〕は同部位のカラードプラ像である。

別冊 D

図 21 - A, B

問41 最も疑われる疾患はどれか。

1. 動脈管開存症
2. 肺動脈狭窄症
3. 大動脈狭窄症
4. 心室中隔欠損症
5. 心房中隔欠損症

問42 本疾患に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 自然に治癒することがある。
2. 軽度の症例では治療を必要としない。
3. 中等度から重度の症例では肺循環と左心の容量負荷が生じ、咳や運動不耐性などの症状を呈する。
4. アイゼンメンガー症候群に移行することがある。
5. 治療にはバルーン拡張術が用いられる。

**課題22** 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雄、11 か月齢。右後肢の跛行が徐々に悪化し、負重ができなくなってきたとのことで来院。患肢の股関節を伸展させたところ痛みが認められた。〔図 22〕は本症例の股関節 X 線腹背像である。

別冊 D

図 22

**問43** 跛行の原因として最も疑われる疾患はどれか。

1. 大腿骨頭成長板骨折
2. 股関節形成不全
3. レッグペルテス病
4. 股関節脱臼
5. 離断性骨軟骨症

**問44** 本疾患に対する手術法として最も一般的なものはどれか。

1. 大腿骨頭骨頸切除術
2. K ワイヤーによる整復固定術
3. 骨盤三点骨切り術
4. 大転子転位術
5. 離断骨片の除去



課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

〔図 23〕は食中毒の原因となる魚の写真である。

別冊 D

図 23

問45 この魚の毒成分に関する記述として適切なのはどれか。

1. シガトキシンが毒成分である。
2. 渦鞭毛藻類が産生する。
3. 加熱処理することで完全に失活する。
4. 毒力の強さは魚の種類と部位によって異なる。
5. ムラサキイガイも同じ毒成分を保有する。

問46 この食中毒に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 素人による家庭料理が原因となることが多い。
2. 食後 30 分～3 時間で発症する。
3. 呼吸困難で死亡することがある。
4. 動物性自然毒食中毒の中で発生件数が最も多い。
5. この魚を取り扱うためには厚生労働大臣の許可を得る必要がある。

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

牛、黒毛和種、雌、8歳齢。分娩後60日を過ぎても発情が来ないとの主訴で検査したところ、子宮には異常を認めなかった。〔図24-A〕は両側卵巣の超音波検査像であり、この所見に基づいてある薬剤を筋肉内投与した。〔図24-B〕、〔図24-C〕は投与2日後および7日後の両側卵巣における超音波検査像である。

別冊 D

図 24 - A, B, C

問47 投与した薬剤はどれか。

1. GnRH
2. オキシトシン製剤
3. プロジェステロン製剤
4. PGF<sub>2α</sub>
5. プロラクチン

問48 薬剤投与7日後における処置として適切でないのはどれか。

1. 人工授精
2. 経過観察
3. PGF<sub>2α</sub>投与
4. プロジェステロン製剤腔内留置
5. 歩数計装着

**課題25** 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、21 日齢。哺乳はするが数日前から左耳の下垂と旋回運動があり、常に〔図 25〕に示す姿勢をとるとの主訴で診察した。

別冊 D

図 25

**問49** 本症例で障害が最も疑われる脳神経はどれか。

1. 第Ⅱ脳神経
2. 第Ⅲ脳神経
3. 第Ⅴ脳神経
4. 第Ⅷ脳神経
5. 第Ⅹ脳神経

**問50** 本神経障害の原因として最も疑われるのはどれか。

1. アイノウイルス感染症
2. エンドファイト中毒
3. 食塩中毒
4. ヒストフィルス・ソムニ感染症
5. マイコプラズマ感染症

**課題26** 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

犬、雑種、雌、8 か月齢、ソファから飛び降りた後に左前肢を挙上しているとの主訴で来院。〔図 26〕は左前肢の X 線側方像および頭尾像である。

別冊 D

図 26

**問51** この骨折はソルター・ハリス分類の何型か。

1. I 型
2. II 型
3. III 型
4. IV 型
5. V 型

**問52** 骨折の固定法として最も適切なのはどれか。

1. キャストによる外固定
2. 創外固定
3. 髓内ピンを用いた固定
4. テンションバンドワイヤーを用いた固定
5. ラグスクリューと K ワイヤーを用いた固定

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

猫、雑種、去勢雄、1歳齢。右眼のぶどう膜炎と四肢麻痺が見られた後、衰弱して死亡した。〔図 27 - A, B〕は病理解剖時の腎臓と脳の肉眼像、〔図 27 - C〕は脳幹部髄膜の病理組織像（HE 染色）である。

別冊 D  
図 27 - A, B, C, D

問53 〔図 27 - D〕は、確定診断のため実施した脳幹部髄膜病変の免疫組織染色像である。検索抗原はどれか。

1. ボルナ病ウイルス
2. CD3
3. クリプトコッカス
4. コロナウイルス
5. トキソプラズマ

問54 この疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a 静脈に免疫複合体が沈着し血管炎がおこる。
- b 日和見感染により病原性を示す。
- c 人獣共通感染症である。
- d 腫瘍性リンパ球の増殖を認める。
- e 発症猫の死亡率は極めて高い。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

〔図 28〕は複数の同種ウイルスが一つの細胞に感染して起こるウイルス変異体の出現を模式化したものである。

別冊 D

図 28

問55 このウイルス変異の様式名はどれか。

1. 挿入変異
2. 中和回避変異
3. 干渉性欠損変異
4. 分子内遺伝子組換え
5. 遺伝子再集合

問56 このような変異様式を起こすウイルスを原因とする感染症はどれか。

- a 豚水胞病
- b ブルータング
- c 馬インフルエンザ
- d 悪性カタル熱
- e 豚流行性下痢症

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

**課題29** 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

犬、秋田犬、雄、12歳齢。朝から腹部膨満があつてぐったりしており、少量の飲水はしたが吐き出したとの主訴で来院。〔図 29 - A, B〕は腹部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D  
図 29 - A, B

**問57** 最も疑われる疾患・症候群はどれか。

1. 腸重積
2. 食道裂孔ヘルニア
3. 胃拡張・捻転症候群
4. 肝臓腫瘍
5. 胆石

**問58** 本疾患に対する手術法として適切なのはどれか。

1. 食道固定および左側腹壁胃固定術
2. 胃の整復および右側腹壁胃固定術
3. 肝葉切除術
4. 小腸切除および端々吻合術
5. 胆嚢摘出術

**課題30** 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、3歳8か月齢。7か月前に最終分娩。1か月前から徐々に活力と食欲が減退してきた。少量頻回の排尿が認められるが、尿性状は無色透明である。〔図 30 - A〕は血液検査結果、〔図 30 - B〕は右臍部からの腎臓超音波検査像である。

別冊 D  
図 30 - A, B

**問59** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 糸球体腎炎
2. 腎盂腎炎
3. 水腎症
4. アミロイド症
5. 腎細胞癌

**問60** 本疾患の原因として頻度の高いのはどれか。

- a 膀胱破裂
- b 腎臓のアミロイド沈着
- c 尿管結石
- d 膀胱三角の尿路開口部粘膜過形成
- e 第一胃鼓脹症

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e









